

有村祐輔指揮 セシリア・コンソート第6回演奏会

MOZART REQUIEM

2020年4月25日(土)

18:30開演(18:00開場)

上野学園 石橋メモリアルホール

プログラム

G.F. ヘンデル

『キャロライン王妃の葬送アンセム』より

G.F. Handel : 《Anthem for the Funeral of Queen Caroline》(1737)

1. Symphony
2. The ways of Zion do mourn
3. How are the mighty fall'n
4. She put on righteousness

『デッティンゲン・アンセム』より

G.F. Handel : 《Anthem for the Victory of Dettingen》(1743)

Alleluja - We will rejoice in thy salvation

W.A. モーツァルト

『レクイエムK.626』R.D. レヴィン版

W.A. Mozart : 《Requiem K.626》(1791)

completed and edited by R.D. Levin

出演者

有村祐輔 (指揮)

松井亜希 (S)

波多野睦美 (Ms)

櫻田亮 (T)

大山大輔 (Br)

アンサンブル・パルナス東京 (オーケストラ)

セシリア・コンソート (合唱)

〈主催〉セシリア・コンソート

〈お問い合わせ先〉セシリア・コンソート ceciliaconsort2019@gmail.com

全席指定 前売 5,000円 / 当日 5,500円

2019年12月1日(日) 発売開始

①  **イープラス**

eplus.jp (スマートフォン/PC/Famiポート)

<https://eplus.jp/>

② B-flat Ticket

<https://www.bflat-mp.com/t/>



W.A.モーツァルト レクイエム ニ短調 K.626 R.D.レヴィン版

～偉大なる先達へのリスペクトとともに～

日本古楽界のパイオニア有村祐輔率いるセシリア・コンソートが今回取り組むのは、モーツァルトの絶筆となった『レクイエム ニ短調』だ。

未完ながらも宗教音楽の最高傑作に数えられる本作は弟子ジュスマイヤーの補筆により 1791年に完成・初演されたが、今回は現代の著名な鍵盤奏者で音楽学者でもあるロバート・D・レヴィンの校訂版(1991)を使用する。20世紀後半に発見されたモーツァルト自筆の“アーメン・フーガ”(スケッチ)を拡大しジュスマイヤー版のラクリモーサ終結部を置換するとともに、補筆者が創作せざるを得なかったが故に音楽的弱点と見做されてきたサンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュス・デイの再構成を中心とするもので、アバド指揮によるカラヤン追悼演奏会(1999)でもバイヤー版との折衷ながら採用されるなど現在最も注目される版だ。その新鮮で緻密な響きを是非体感頂きたい。

一方、モーツァルトはヘンデルやバッハの作品研究を通じて彼らの影響を強く受けたが、本作にもその痕跡が認められる。前半のステージでは、レクイエムを構想するにあたり彼が参照したとされるヘンデルの作品を紹介し、モーツァルトの彼に対する深いリスペクトを追体験することとしたい。なお、全曲とも古楽器を使用しピッチ 430Hzにて演奏する。

指揮 有村祐輔

東京藝術大学音楽科卒。1969～72年、英国に留学。ノッティンガム大学大学院修了(MA)。音楽をノーマン・ブラット、リコーダーと通奏低音をウォルター・バークマン、音楽学(ルネサンス音楽および音楽解釈法)をデニス・アーノルド教授、スタンリー・ポーマン博士の各氏に師事。同時に、サー・ロジャー・ノリントン率いるロンドン・シュッツ合唱団、さらにはセント・ポール大聖堂聖歌隊に参加するなど、英国における合唱、宗教音楽の実践について幅広く研鑽を積んだ。また、現代英国でのカウンター・テナーの草分けであるアルフレッド・デラーや夭折した天才古楽演奏家デイヴィッド・マンロウ両氏の教養も受けている。1983～84年、再度渡英し、オックスフォード大学に留学。主に16世紀イタリア・マドリガーレ資料研究を行う。現在は主にバロック・オペラの研究とその復活上演の指揮、著作、翻訳などに携わる一方、様々な合唱団の指揮、合唱コンクールの審査員、講習会の講師など、その活動は多岐にわたる。上野学園大学前教授、都留文科大学名誉教授。日本古楽協会代表。日本合唱指揮者協会会員。日本音楽学会会員。著書に『シェイクスピアの音楽』(大修館)、訳書『内なるオルフェウスの歌』(A・ルーリー著、音楽之友社)、監訳『古楽の復活』(ハリー・ハスケル著、東京書籍)、共訳『ニューグローヴ世界音楽大事典』(講談社)などがある。



ソプラノ 松井亜希



メゾソプラノ 波多野睦美

©Toshiyuki Kohno



テノール 櫻田 亮

©Ribaltaluce



バリトン 大山大輔

オーケストラ アンサンブル・パルナス東京

リーダー 川原千真

ピリオド楽器のスペシャリストとして豊富な経験を持つ俊英達による器楽アンサンブル。有村氏との共演も数多く、その精緻でエネルギー溢れる演奏は高い評価を得ている。

バセットホルン	▶ 横田揺子 満江菜穂子
ファゴット	▶ 永谷陽子 安本久男
トランペット	▶ 平井志郎 高丸智子
ティンパニ	▶ 村本寛太郎
トロンボーン	▶ アルト 南紘平 テナー 宮下宣子(ソロ) バス 石原左近
オーボエ (ヘンデルのみ)	▶ 森綾香 荒井豪
ヴァイオリン1	▶ 川原千真 小田瑠奈 宮崎桃子
ヴァイオリン2	▶ 三輪真樹 宮崎容子 片桐恵里
ヴィオラ	▶ 中島由布良 鈴木友紀子
チェロ	▶ 田崎瑞博
コントラバス	▶ 諸岡典経
オルガン	▶ 能登伊津子

合唱 セシリア・コンソート

有村祐輔の教え子たちが中心となって彼の傘寿を祝うメサイア演奏会のため 2012年に結成。公演後すぐに解散するはずが「冥土の土産にヴェスプロを！」の有村の一言で存続となり、今回が6回目の公演である。『ヘンデル:メサイア』(2013)、『モンテヴェルディ:聖母マリアのタベの祈り(ヴェスプロ)』(2015)、我が国合唱音楽の多様化の軌跡を辿る『HERITAGE～日本合唱音楽の系譜』(2016)、ヘンデル、ヴィヴァルディ、バッハの華やかな宗教曲を集めた『頌め歌～バロック三大作曲家の饗宴』(2017)、ビクトリアとモンテヴェルディを対置しルネサンスからバロックへの劇的な変容にフォーカスした『PARADIGM SHIFT～ルネサンスの残照、バロックの光彩』(2019)と、バロック作品を中心としたオーセンティックな演奏とコンセプチュアルなプログラムは毎回高い評価を得てきた。これはメサイア以来の“常連”として今回も共演頂く川原さん率いるパルナスの皆さんや独唱の松井さん、波多野さん、櫻田さん、大山さん等の見事なパフォーマンスに負うところでもある。なお、今回は有村祐輔の米寿(!)を祝いメサイアを再演する。



アクセス

〒110-8642 東京都台東区東上野 4-24-12 学校法人上野学園内
上野学園 石橋メモリアルホール

- JR各線「上野駅」入谷改札より入谷口から徒歩8分
- 東京メトロ・日比谷線/銀座線「上野駅」1番出口より徒歩8分

※ホールには駐輪場、駐車場はありません。

